

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                         |    |        |    |
|----------------|-------------------------|----|--------|----|
| ○事業所名          | 発達支援スクール クローバー          |    |        |    |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年1月15日 ～ 2025年3月31日 |    |        |    |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                  | 41 | (回答者数) | 32 |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年1月15日 ～ 2025年3月31日 |    |        |    |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                  | 6  | (回答者数) | 6  |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年4月1日               |    |        |    |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                                                     | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                                 | さらに充実を図るための取組等                                                                    |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ・療育に携わる職員の専門性が高いこと。<br>言語聴覚士、保育士、幼稚園教諭、元支援学校教諭が常駐しており、保育園、幼稚園、学校での具体的な場面を想定しながら、児童にアプローチできること。 | 職員それぞれが経験してきた専門的な目線で児童の様子を分析し、職員同士で児童の課題を共有している。<br>保護者からの困りごとに対してもあらゆる角度から意見を出し合い、解決策をご提案できるよう努めている。 | 毎月、研修制度を設けており、職員一人ひとりの専門性をより高められるよう注力している。                                        |
| 2 | ・保護者や園との情報共有に力をいれ、より安心感のある連携支援を常に目指している。                                                       | 来所時や送迎時に、保護者や園の先生と直接話す機会を大切にし、必要であれば児童が通園している園と連絡を取り、情報を共有しながら支援の統一を心がけている。                           | 市の児童発達支援センターとも、より一層連携を図り、就学後も長く続く支援を目指したい。<br>また、保護者や児童に様々な進路を提案していけるよう情報収集に努めたい。 |
| 3 | ・言語訓練、個別療育、小集団療育と療育内容も豊富な為、それぞれの視点から児童の様子を分析することができる。                                          | 言語訓練は1：1、状況によっては1：2で訓練を実施。個別の運動療育では1：1での療育。<br>さらに、小集団療育では学年を揃えたり、同じような特性や困りごとを抱えた児童で集団活動を行っている。      | 児童の成長に合わせて、療育内容の変更も柔軟に対応できるよう職員の配置や環境構成を行っている。                                    |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                      | 事業所として考えている課題の要因等                                                               | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                                      |
|---|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 保護者に対するフィードバックは支援において重要な要素であるが、園送迎を利用している保護者に対しては、十分に行えないことがある。 | 児童を中心とした療育に力を入れることによって、保護者との連絡ノートに十分にサービス提供の記録を書くことが難しい場面がある。                   | ノートの代わりに連絡アプリ等を導入し、その中でお子様のご様子をお伝えできるようにしていきたい。<br>就労されている保護者様にも、より手軽な方法でお子様のご様子を確認してもらえるようにしていきたい。                       |
| 2 | 支援を行っていく中で、身体的に気になる児童がいた時に事業所内だけでは判断することが難しい。                   | 医療の現場とも連携を図りたいが、時間を作って実際繋がりを持つことが難しい。                                           | 対象の児童がいる場合は、豊中市の児童発達支援センターに訪問を依頼し、保護者様に同意を得て実際にお子様のご様子を見ていただく機会を設けている。<br>OT、PTの専門的な目線でアドバイスをもらい、必要であれば医療ケアへ繋げる支援も依頼していく。 |
| 3 | 保護者会等の開催や、事業所で行事をすることができない。                                     | 日々、開所時間内で入れ替わり児童が利用しているので、開所中は行事等が出来ない。<br>休日は職員の配置が難しく、また代休等で開所日の職員の配置に支障をきたす。 | 事業所での開催は困難なため、豊中市や大阪府が開催される講習会等の案内を保護者様に周知していく。                                                                           |